

ネパール障害児学校・ウガンダ子ども病院建設支援キャンペーン

AMDA高校生会は4月18、19日に、1998年岡山桃太郎まつりにAMDAスタッフとともに参加して、高校生会が支援しているネパール子ども病院付属障害児学校建設プロジェクトの紹介パネル展と募金活動を行った。岡山の皆さんにネパールの現状と障害児学校の必要性を知ってもらおうと、高校生会メンバーは学校帰りにAMDA本部に集まり（火・金曜日に集まっている）、何日も掛けてネパールの医師・ニルマル氏よりアドバイスを受けながらパネルを作成し、パネル展の準備を行った。

また、5月5日にはAMDAのアフリカプロジェクトを支援したいという、岡山の舞踊劇団・秘宝館昇天堂一座の申し出を受けて、高校生会もウガンダ子ども病院建設プロジェクト（アフリカ中部のウガンダは、1982年以来、HIVの感染が拡大し、現在の患者数は大多数にのぼっている。特に感染児の死亡率が非常に高くなっている。このためAMDAでは子ども病院建設の計画をすすめ、1998年2月には首都カンパラに隣接するムコノ県から、建設用地の寄贈を受けている。病院では子どもを中心とした治療の他、予防教育、さらにはこの病院で活動できる現地の医師や看護婦（士）の養成も行う予定である）のパネル展を行った。

『チャリティーパフォーマンス 歌舞の宴 ウガンダに子ども病院を！』と題した昇天堂の公演では、踊りの中に募金箱などを持ち込んで、ウガンダ支援を訴えたパフォーマンス（ウガンダでは、100円で総合ビタミン剤が200錠、400円で注射器と針が3セット、500円で抗生物質が350錠を買うことができるという、現地での100円パワーを表現した。）も盛り込まれていた。フィナーレでは高校生会のメンバーも踊りに加わって、踊りながらの募金活動を行った。

山 藤 新 月 門 (夕刊)
1998年(平成10年)4月16日



ニルマルさんから写真の説明を受ける高校生ら＝AMDA本部